

平成27年度研究成果中間報告書《平成27年度指定教育課程研究指定校事業》

都道府 県・ 指定都 市番号	53	都道府 県・ 指定都 市名	横浜市	研究課題番号・校種名	3(5)幼稚園小学校
				領域名	幼小接続
研 究 課 題	<p>学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究</p> <p>(5) 幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を図るための指導計画の工夫、及び指導内容、指導方法等の工夫改善に関する実践研究</p>				
ふり 学校名 (園児・ 児童数)	<p>横浜市栄区(笠間地区・桜井地区)</p> <p>私立中野幼稚園 267名</p> <p>私立かさまの杜保育園 72名</p> <p>私立アスク大船保育園 39名</p> <p>私立杜ちやいんど園 39名</p> <p>横浜市立笠間小学校 706名</p> <p>横浜市立桜井小学校 338名</p>			<p>学校・地域の特色及び実態等</p> <p>○本校は JR 大船駅より徒歩圏内に住む小学生が通っている。大きなマンションから半数以上通っている。公立の保育所・幼稚園はなくすべて私立である。</p> <p>○平成 25 年度より横浜市の幼保小連携推進地区の委嘱を受け、かさまの杜保育園及びアスク大船保育園とともに笠間地区として幼保小交流と連携の在り方を探ってきた。</p>	
所在地 (電話番号)	神奈川県横浜市栄区笠間3丁目28番1号 (045-892-6602)				
研究内容等掲載 ウェブサイト URL	<a href="http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kasama/index.cfm/1,1856,57,html">http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kasama/index.cfm/1,1856,57,html</a>				
<b>研究のキーワード</b>					
<p>○幼稚園・保育所における小学校教育を見通したアプローチカリキュラムと幼保の学びを生かすスタートカリキュラム</p> <p>○「表現(幼保:表現 小学校:音楽・図画工作)」でつなぐ幼小の接続カリキュラム</p> <p>○単発の交流よりも回を重ねて互いが高まる交流。子供だけでなく、教職員の接続への意識が高まる交流。</p>					
<b>研究成果のポイント</b>					
<p>○ 入学当初、幼稚園・保育所における遊び歌や絵描き歌などの経験を生かすことで、多数の園での様々な学びを児童同士が共通化し、個々の表現の幅を広げることができた。</p> <p>○ 「表現」でつなぐカリキュラム作りでは、まず幼保小の実践を知り、教職員が相互に授業や保育を行うことで、発達の段階にふさわしい指導の在り方が見えてきた。</p> <p>○ 年長児と5年生、年長児と1年生との交流関係が翌年にも継続し、6年生と2年生に進級した児童の企画・実践力で1年生の安心感が増すと共に、そのことが6年生の自信にもなっている。また、5年生の踊りを見て園児が憧れを抱き、踊りの学びが早く深くなった。5年生と年長児の双方に学びの高まりや深まりが見られた。</p> <p>○ 一人一人の子供の情報交換を通して、双方の教職員が、互いの教育への見通しを持った指導に役立てることができた。</p>					

1 研究主題等

(1) 研究主題

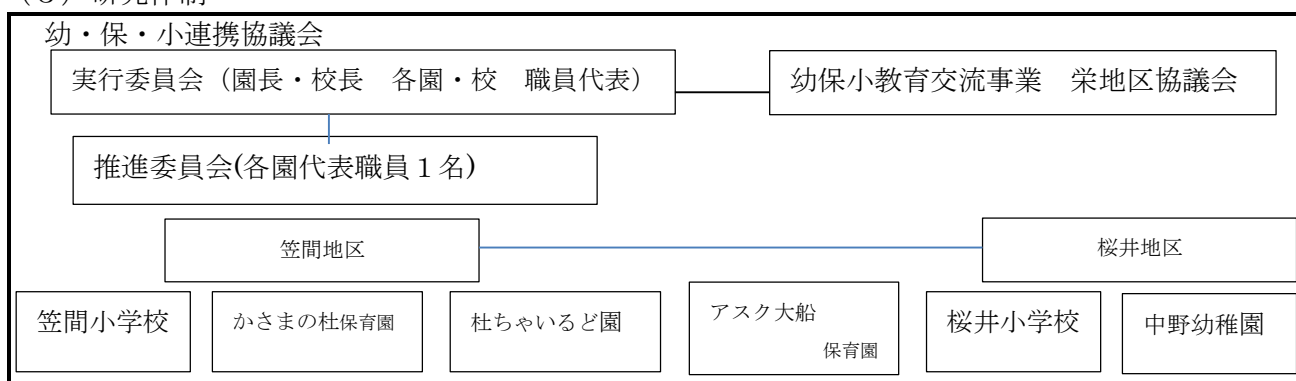
子どもの育ちと学びをつなぐ幼保小の交流と連携  
～幼保の「学び」を生かした、カリキュラム・マネジメントの在り方～

## (2) 研究主題設定の理由

平成25年度より、横浜市の幼保小連携推進地区の委嘱を受け、かさまの杜保育園及びアスク大船保育園とともに笠間地区として幼保小の交流と連携の在り方を探ってきた。その中で、単発の交流よりも複数あるいは複線的な交流が効果的であることが分かってきた。具体的には、1年生との交流では、学校紹介だけでなく、音楽や影絵などの「遊び」を核とした交流を積み重ねていくこと、また5年生との交流では、1年生になった時に出迎える6年生として事前に顔見知りや、幼稚園や保育所でやってきたことが分かった上での交流となることが効果的であった。また、園児も「表現」において、教えてもらった遊び歌で楽しんだり、音を大切に楽器を演奏したりする姿が見られ、「表現」としての高まりがみられた。

このことを受け、幼保の「学び」を生かした交流と連携を深めることで、具体的な子供の姿を踏まえた「アプローチカリキュラム」「スタートカリキュラム」を含む指導計画の改善及び指導の方法の多様化を図ることができると考えた。本研究では、子供の育ちを具体的な姿で捉えた、より実践的な研究を目指す。また、発達段階にふさわしい「表現」の在り方を踏まえた指導計画の改善及び指導の方法の多様化を図った。さらに、笠間地区には保育所のみで幼稚園がないので、新たに中野幼稚園、そして近隣の桜井小学校を加え、3園2校で研究を進めてきた。

## (3) 研究体制



## (4) 1年間の主な取組

平成27年度	4月	保育所訪問 顔合わせ 今年度の交流計画の見直し 実行委員会 推進委員会 研究内容・方法について 保育所職員来校 スタートカリキュラムに参加 校長・音楽専科がかさまの杜保育園で音楽交流
	5月	運動会参観 (かさまの杜保育園職員)
	6月	校長・音楽専科がかさまの杜保育園で音楽交流
	7月	5年生が年長児と初めての交流 (ソーラン節を見せる)
	9月	1年生と年長児がワークショップで絵本作り
	9月	5年生が年長児と交流
	10月	かさまの杜保育園運動会に5年生がソーラン節で参加 5年生が年長児と交流 1年生と年長児の交流 (「年長さんとなかよしの会」, 給食交流) 保育所・小学校の教職員による活動の振り返り O・A・J公演 合同音楽鑑賞会
	11月	和太鼓公演 合同音楽鑑賞会
	2月	1年生と年長児の交流

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

- ・年間計画及び実践計画
- ・子供の育ちや学びの具体の姿を通じた情報交換
- ・実践後のカリキュラムの修正・改善
- ・実践の足跡の作成及び学びの連続性を鑑みた次回の立案

研究を始めるに当たって、まずは本校が連携する幼稚園及び保育所の実態把握をし、今年度の成果はどのように表れたか、特に課題となった点について、何が原因で、何を改善すれば課題解決となるかを探ってきた。そのために、全学年からなる「幼保小連携委員会」を組織して教職員間の情報交換を行い、具体的な子供の姿で語ることで内容や方法について考えてきた。

幼稚園・保育所の実態を通して、子供にとっては、遊び歌の楽しさを実感したり、手遊びを生かした影絵遊びの面白さ、不思議さを体感したりする経験が大切であることを感じた。「本物に触れる」ことで子供の感性は磨かれ、自分の表現も高まっていくと思われる。

また、例えば保育所・幼稚園の教職員が、1年生の読み聞かせや遊び歌の指導を行ったり、小学校の教員が園での「表現」活動の指導を行ったりするなど教職員が相互に乗り入れて交流することで、幼児・児童の学びが深まるだけでなく、この内容を系統的に行うことが子供の「育ちと学び」につながり、その結果、「幼保の『学び』を生かしたカリキュラム・マネジメント」ができるようになる。

## (2) 具体的な研究活動

### ① 1年生と年長児の交流活動～保育士の小学校訪問～

スタートカリキュラムにおいて、3日間連続で保育士が小学校を訪問し、1年生に手遊び歌や本の読み聞かせを行った。1年生にとっては、違う園から来た子も自分と同じような活動をしてきたことが分かり安心感につながった。1年生担任にとっては、絵本の読み聞かせをじっくり聞く子供たちの姿から園での「育ち」を知り、今後の指導に生かしていくことができた。

### ② 5年生と年長児の交流活動（年間を通じた交流）

幼児と児童の実態を把握した後、音楽科、図画工作科での実践や1年生、5年生との交流活動を行い、その事後には振り返りを次回の交流に生かすなどPDCAを意識して進めてきた。

また、全体の進捗状況を把握するために、年3回実行委員会 推進委員会を開き、交流時における具体的な子供の姿を通して話し合ってきた。10月には交流の様子を近隣の幼保小にも公開し、子供の様子を通して交流活動を示した成果は大きい。

〈1組と杜ちゃいんど園〉1回目の交流からバージョンアップしたグループが多かった。例えば、折り紙グループは一緒につくることを楽しむだけでなく、動物園をつくるという目的を持ち、様々な動物をつくる活動になっていった。

〈2組とかさまの杜保育園〉1回目の交流でソーラン節を踊ったことから、保育園では運動会の演技で行うこととなった。そこで、5年生が交流活動を通して、踊りのポイント（腰を低くすることや手や指先をピンと伸ばすことなど）を一緒に踊りながら教えた。児童は教えることに苦労しながらも、上手になっていく園児を見て「本番が楽しみ」とどの子も嬉しそうな顔をしていた。

〈3組とアスク大船保育園〉1回目の交流で小学校で行っていることの紹介をした際、「体験してみたい」という園児の声から、今回は15分ずつ「書写」「昔遊び」「音楽」「裁縫」の体験ができるコーナーを用意した。児童は園児に体験の仕方を伝える難しさを感じながらも、楽しそうに行う園児たちを見て、充実した表情を浮かべていた。

## 3 研究の成果と課題

### (1) 成果

○幼保の学びを生かすスタートカリキュラムでは、多くの園から入学してきたことをメリットと捉え、それぞれの園での多様な遊び歌や絵描き歌などの経験を共有化することで個々の表現の幅を広げてきた。

○「表現(幼保:表現 小学校:音楽・図画工作)」でつなぐカリキュラムでは、幼保の「遊び」の様子を把握した上で、校長や音楽専科による保育所での指導を行った。音遊びの実践経験の少ない保育士には、その指導の様子を見て、歌を歌うだけではなく様々な「音楽表現」の指導のあることについて知る機会となった。教職員が相互に授業や保育を行うことで、「表現」でつなぐカリキュラムにおける発達の段階にふさわしい指導の在り方が見えてきた。

○「年長児と5年生」、「年長児と1年生」の交流が年間を通してスパイラルに継続していくことで、

単発の交流よりも回を重ねるごとに互いの学びが高まる交流となっていく。進級した6年生と2年生の企画・実践力で1年生の安心感は増し、6年生の自信にもなっていく。また、5年生との交流では、5年生の踊りを見て園児が憧れ、教師が指導するより踊りの学びが早く、深くなった。双方の学びの高まりや深まりが見られた。

○一人一人の子供の情報交換を通して授業や保育の在り方を学び、それぞれの教育に取り入れるとよいことを見だし、指導に役立てることができた。

・幼保小の取組についての保護者評価では、高い評価を得た。【平成27年10月実施】  
「学校は、幼稚園や保育園、地域との交流を通して、豊かな心を育てている。」

A: そう思う B: だいたいそう思う C: あまりそう思わない D: そう思わない E: わからない  
44.6% 48.9% 4.0% 0.2% 2.3%

## (2) 課題

○交流の成果を、具体的に見られた子供の姿でどのように示すかの検討が必要である。

○幼児との交流は、1年生と5年生が中心となる。学校全体で幼保小の取組を生かすには内容や方法の検討が必要である。

○多数の園と年間を通しての交流となるため、互いの日程調整及び、交流外他園への支援の在り方の検討が必要である。

## (3) 2年目へ向けての取組

今年度の成果と課題を受け、笠間地区として大切にしていきたい「幼保の学びを生かすアプローチ・スタートカリキュラム」「『表現』でつなぐカリキュラム」を具現化していく。特に保育所・幼稚園のカリキュラムについては年長児のみの改善ではなく、年長に至るまでの生活や遊びの充実も見通す必要がある。カリキュラムをもとに、子供の姿に応じて無理せずに実現状況を見守り、互いを高め合う交流を目指したい。

具体的には、

### ①「幼保の学びを生かしたカリキュラムマネジメントの在り方」について

小学校においては、ともするといろいろな幼稚園や保育所からの入学を「デメリット」と捉えがちだが、それぞれの幼稚園・保育所での学びを生かし、児童同士が共有することで、児童も教師も学びの引き出しが増えていく、「メリット」と捉える。

幼児と児童の交流、教職員同士の交流によって、幼児期から児童期への学びの連続性が分かり、それぞれにその学びを生かすことができるのである。

### ②幼保の「表現」を大切にすること

幼保の学びを生かした交流と連携の中で「表現」を取り上げたのは、交流と連携には子供達にとって心と体の動きを伴った豊かな体験が不可欠と考えたからである。例えば、幼児も児童も遊びの中で音や色と出会っていると、ただ見ているだけでなく、触ったり、たたいたり、描いたりして、五感をすべて使って面白さや不思議さを実感する。そうした「表現」は自然と子供に身に付き、子供達の心を豊かに育てていくと考える。

### ③成果と課題を踏まえた28年度の方向性について

「無理のない」「双方に有効である」交流を通して、交流の質を高めることが大切である。

来年度は、これまでの交流の成果を生かし、双方のカリキュラムの充実、特にアプローチカリキュラムを含む幼稚園・保育所のカリキュラムの見直しやスタートカリキュラムを受けた小学校のカリキュラムの充実が必要となっていく。具体的には、音楽科であれば小学校での音楽づくりの「音遊び」の内容の工夫や引き出す方法などについて、幼保では「音遊び」につながるの深い遊びの中での「音」への感覚やその実感を伴った活動の工夫や「方法」などを教職員間で共有化したい。